

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493400087
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	みんなの家 横浜宮沢
訪問調査日	平成20年1月23日
評価確定日	平成20年3月5日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 1月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	第1493400087号
法人名	株式会社 ウィズネット
事業所名	グループホームみんなの家 横浜宮沢
所在地	横浜市瀬谷区宮沢3-21-25 (電話) 045-300-0050

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年1月23日	評価確定日	平成20年3月5日

【情報提供票より】(平成 19年 12月 29日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 2月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤 9人	非常勤 9人	常勤換算 11.7人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 120,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	350 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1月23日 現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	5 名	要介護2	9 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八木在宅クリニック 湘南泉病院 中川歯科診療所
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは道路に面し、背後には神社に隣接し、周囲を広々とした田園に囲まれ、建物の内部は浴場の福祉機器や現代的な設備と快適な生活空間を備えており、穏やかに暮らせる環境に恵まれています。
当ホームを運営する法人は、高齢者福祉の分野で数多くの事業展開をしています。認知症高齢者のホームも多数あり、近在にも2ヶ所のホームが運営されて協力ができるようになっています。
当ホームでは訪問医(月2回)、訪問歯科(月4回)を実施しており、薬剤師による薬学的な管理指導にも力を入れており、介護予防面での充実を図っています。
理念である入居者・家族そして職員の「笑顔」を引き出す為に、「柔軟な視点による、入居者一人ひとりのニーズに合わせたケア」を、当ホームでは何よりも大切にしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価の為、改善課題がありません。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めての自己評価にあたり、事前に研修会を開くなど評価の意義や評価項目についての理解に努め、職員全員が参加しています。自己評価を実施することで新たな「気付き」の成果もあり、評価結果を受けた後に改善に取組む姿勢も伺われます。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>昨年11月には区の主導による地区合同の初回会議と今年1月に系列の3グループホームによる2回目の会議を経験しています。これまでは、顔合わせやホームの活動報告が中心でしたが、今後2~3ヶ月に一度のペースで開催される会議は、参加者と顔の見える関係が出来ることから、参加者からの意見等を運営に活かしたり、ホーム側からは地域に貢献できる事の情報発信の場になると思われれます。これが理念である「地域にホームを知ってもらふ」ことに繋がるよう期待されます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見、苦情、不安への対応方法としては、先ず意見等を記録として残し、早期の解決に向けた検討会議が開かれています。討議内容については、運営主体である法人の統括部署にも伝達されており、グループ全体の問題として取り組み、また運営に反映される仕組みが出来上がっています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>開所間もないものの、努めて自治会の行事やホームに参加し、隣接する神社のお祭りなどの催し物に参加するようにしています。また、回覧板を有効に活用してホームでのイベント開催の通知にも努めています。 今後は主として運営推進会議を通じて、積極的なボランティアの活用や介護情報・防災等の拠点になることで、日常生活における地域との連携が深まることが期待されます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の「必要な人に必要なサービスを」の理念の下、「地域にホームを知ってもらう」・「笑顔」というホーム独自の理念を掲げている。特に「笑顔」の理念には、入居者や家族だけでなく、その笑顔を生み出すべく職員全員の笑顔もという想いが込められている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	このホーム独自の理念を掲げるに当たっては、管理者及び職員全員が会議を開き、検討して決まったものである。当然のことながら理念を共有し、理念の実践に向けて心温まるケアに日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開所して1年にも満たないが、自治会の行事や地元の象徴的な存在である神社がホームに隣接していることもあり、神社のお祭りなど催し物に積極的に参加している。今後、運営推進会議等を通じてホームのイベントへの地域の人達の参加により交流が深まることが見込まれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めての受審に当たり、研修会を開き評価の意義や理解に努め、自己評価についても職員全体で臨んでいる。自己評価を実施することで新たな「気付き」の成果があり、結果を受けて、次の改善に取り組む姿勢も伺われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の11月に地域合同の運営推進会議に参加し、そして今年1月に同系列の3グループホームによる2回目の会議を終えた。今後は2～3ヶ月に1回のペースで開催される予定で、参加する自治会長や民生委員とも顔の見える関係も出来、運営に活かされる意見等が期待されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者の中で行政のケースワーカーが関与していることもあり、日常的に連携を密にし助言を受けている。また、入居者の介護保険関連の申請手続き等を通じても密接な関係が出来ている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的(毎月)に金銭管理報告と併せて、「一言通信」という書面にて、本人のホームでの暮らしぶりや健康状態などを家族宛に発送している。また、体調不良や急変時には、早急に家族へ電話連絡するなど個々に応じた報告もしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口やホーム内に「意見箱」を設置している。また、電話で様子を伝える際や面会時、さらに家族会などでも努めて意見や不満を聞き出せるようにしている。その対応として検討会議を開いたり、重要な案件については法人へも報告が上がるなど早期解決に向けた態勢が出来ている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	当ホームでは原則として、職員の異動等による影響への配慮から「居室担当制」を採用している。この制度を職員間で周知徹底させる意味も含め、入居者へのダメージについての話し合いの場が設けられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営主体の法人が人材育成に積極的に取り組んでおり、職階別研修や自己啓発研修など情報提供をしている。受講の際にはシフトの調整の配慮もされている。また、社内研修の場として職員会議も活用されている。		開所して間もなく1年を迎えようとしていますが、職員のさらなるケアの技術向上の為、常勤・非常勤を問わず、計画を立て、外部研修等の奨励と機会の確保を期待します。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人が運営するグループホームがほぼ同一地域内に3ヶ所開所されており、情報交換など連携が密に取られている。また、系列外ではあるがすぐ近くのグループホームとも同業者として交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>環境の変化が認知症高齢者にもたらす不安を熟知しており、居室に馴染みの品々を持ち込むことから他の入居者と交流し易い場面を設定したり様々な工夫をしている。また、訪問が難しい家族には電話口で声を聞かせて貰うなど家族との協力関係も築かれている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は支援する側、入居者は支援される側といった意識を持つことなく、職員は入居者を「人生の先輩」として接している。料理の調理法や言葉の由来を教えられる機会も多く、家族のように支え合う関係が築かれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報提供や日々のホームでの生活の中で交わされる会話や表情、動作から思いや意向を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族との話し合い、カンファレンス等で意見を出し合い利用者本意の介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には半年に一度見直しを行っている。入院等状況の変化が生じた場合はその都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて受診の際の付き添いや、法人本部の車両を利用して外食やドライブ等の外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医と密に連絡を取り、24時間いつでも相談できる関係が築かれている。入所前からのかかりつけ医の受診にも柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の際に法人の定める看取りの指針に基づき本人、家族に説明し、話し合っている。重度化した場合、医師、ケアワーカー、職員等関係者が方針を共有する体制がつけられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応について会議等で繰り返し話し合い、職員の意識の統一を図っている。希望する利用者には居室のドアの小さなガラス窓に目隠しをほどこし、プライバシーに配慮している。個人情報に関わる記録は鍵のかかる戸棚に保管管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や状態にあわせて、起床や食事時間をずらす等生活リズムに変化をもたせて対応している。買い物、夜間入浴等利用者の希望にはできる限り迅速に対応するよう心がけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう外食や、事業所内行事でのバーベキューやバイキング等利用者の希望のメニューの提供に努めている。また、利用者一人ひとりの力を活かしながら食事の準備、配膳、後片付けを行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間帯の設定はなく、可能な限り利用者一人ひとりの希望に対応している。拒否のある方も声を工夫したり、タイミングを図り支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花作り、カラオケ、イベント時の力仕事等一人ひとりの生活歴の中からできること、楽しみごとを探り支援に努めている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせて散歩、買い物に出かけている。外出が難しい方もベランダに出て日光浴を行い、外気に触れる環境をつくり、室内に閉じこもらないよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所の前がすぐ道路になっているため、利用者の安全確保及び防犯上やむおえず玄関だけは施錠している。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署、職員間での火災訓練は行った。利用者も交えての訓練は事業所独自で1月に行った。災害時の為の水、食料等の備蓄をしている。		今後、防災訓練の年間計画を立て、地域の方や消防署の協力を得た訓練を実施して、災害対策に取り組まれることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された食材が業者から届けられている。摂取量が少ない方は食事時間をずらしたり、栄養補助食品を取り入れたり工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角に畳を敷いてこたつを置き、季節感を演出してくつろげる空間を作り出している。1階の浴室は、リフト浴に対応するよう広く設計されているため、パネルヒーターを設置し寒さに配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇、家族の写真を飾る等、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせるよう工夫している。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢
記入者名 (管理者)	山村 生恵子
記入日	平成 18 年 12 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[地域にホームを知ってもらう]という理念の下、地域の行事へ参加したり、ホームの行事を地域の方にお知らせをしている。		回覧板などを活用し、ホームの行事をもっと多くの方に知っていただき、地域の方がホームへ足を運んでもらうようにしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	[必要な人に必要なサービスの提供を]の理念のもと、利用者・家族の意向を取り入れ、ケアカンファレンスにて話し合い、介護計画にて周知・実践をしている。また、事業所として、[地域にホームを知ってもらう][笑顔]という理念を会議の中で話し合い、職員と共に定めた。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームに掲示し、家族会で理念について説明をしている。また、地域の行事に参加するときは、家族にも参加を呼びかけ、理念を具体的に理解してもらえようように呼びかけている。		運営推進会議にて、地域に理念の理解を求めてゆきたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で近隣の方々に会った際に挨拶や会話をしている。また地域の行事等、回覧板の中から抜粋したものをまわして頂いている。		お茶を飲めるような場所を地域へ提供してゆきたい。また、ホームの行事への参加を呼びかけてゆきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催し物や、神社の行事などに参加できる機会を大切にしている。また、ホームのイベントへの参加についても連絡し、地域の方に来ていただけるように努めている。		地元の方々との交流が少ないので、自治会の会合や行事へ参加をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々との良い関係を築いてゆくにはどうしたらよいか、ボランティア等地域資源の活用について職員会議で話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関して研修を開き、理解に努めた。また、自己評価は職員全員で行うことで、新たな気づきや改善点があった。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所主体の運営推進会議を開催。現在は事業所の運営推進会議にむけて、内容の検討をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターで開催するイベントに参加したり、要介護申請や生活保護関連でケースワーカーと連携をとり、相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や青年後見人制度についての資料はあるも、現在必要としている方はいないので、活用をしていない。		権利擁護制度についての理解がなされていないので、今後会議などで学ぶ機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等で虐待防止やリスクマネジメントについて話し合う機会を設け、利用者一人ひとりに合わせた対応をし、暴力はもちろん言葉での虐待がないように努力をしている。		虐待防止関連法について学ぶ機会をもち、虐待防止についての理解を一層深めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や解約時は管理者または担当者が説明し、理解をして頂いている。また、不安につながると予想された場合は入居後も再度説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は話掛けやすい雰囲気作りに努め、利用者の意見を傾聴し、その都度話し合いの場をもち、改善に努めている。また、面会者には、本人が不安や不満を言っていないかを時々確認している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況や金銭管理・健康状態等は、毎月お手紙を郵送している。また、状況に応じては電話連絡を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置したり、ホーム内に意見箱を設置している。また、家族会や面会時などの機会に話を伺い、ホームで出来ることに関しては会議で話し合い対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議を月1回開催している。また、問題発生時は随時意見を聞き、反映に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせ、その都度話し合いの機会を設け、早番や遅番を検討・導入している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各階の職員を固定し、利用者となじみの関係が出来るように配慮している。また、職員との話し合いの機会を持ち、利用者へのダメージについて周知に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外ともに研修のお知らせをファイリングし、希望時はシフトの調整をしている。また、職員会議を研修の場として活用している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームの運営者同士が連携を密に取り、疑問点等を話しあっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフトに関してできる限り職員の希望を取り入れている。また、会議の場などで意見を聞き、改善に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当制を導入し、職員が責任を持つようにしている。また、職員と共に働き、個々の努力や能力を把握するように努めている。		介護計画への関わりを深めたり、個々にあわせた研修を行い、さらなる意欲の向上に努めたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームで安心した生活が送れるように話を傾聴し、受け止め、場合によっては家族とも連携をとりながら不安やストレスの軽減を図っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会の際や電話にて話し合いの機会を持ち、家族からの要望を聞くように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から相談を受けた際は職員間・場合によっては医療機関と話し合いの機会を持ち、迅速に対応できるよう心がけている。また、場合によっては提携外の医療機関や福祉サービスを利用できるように調整をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に不安な気持ちを持っている利用者に関しては、なじみの家具や寝具を居室においたり、他の入居者とのコミュニケーションを図ったり、家族との連絡を頻繁にするなど、不安を取り除き早くホームになじめるような支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・される側という立場ではなく、共に生活する家族という関係を大切にしている。介護が必要な部分は職員がフォローし、利用者からは人生の先輩として生活に関しての様々な助言を受け、お互いに支えあう関係を作っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密に取り情報を共有するように心がけており、本人のケアを共に考えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴等、本人・家族から情報を集め、支援に生かしている。また、ホームでのイベントに家族が参加できるようにして、利用者との良い関係を保つようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、友人・知人が気軽に会いに来られる雰囲気をつつしている。また、なじみの場所に出かける利用者もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を理解し、難聴などでコミュニケーションが取りづらい利用者については職員がフォローをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的に関わりを必要としている方が現在はいない。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や動作の中から意向の把握に努め、希望に関しては迅速に対応するように心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査表や、家族・本人からの話から、生活歴を把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや生活記録・食事摂取量や血圧測定などで本人の行動や言動で職員が把握するようにつとめている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いの場を設け、本人に合わせて計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度、新しい介護計画を作成している。必要であれば医療機関・家族からの情報も準備し、今後も対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートの活用、ケアカンファレンスの記録などで、本人の状態を考え介護計画に組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、家族との連絡を取ったり、散歩にでたり、外食に行ったりと、訴えがあった際には出来る限り迅速に対応するように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て消火訓練を行ったり、地区センターを利用し、カラオケや図書の貸し出しを行っていた。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業所又は外部のケアマネジャーと外部のケアマネジャーと連絡をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて協力を図る。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望時はご家族付き添いにてかかりつけ医の外来受診を行っている。また、24時間体制でサポートを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問医の判断や、職員の要望で専門医の治療が受けられるようになっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師や訪問医療機関の看護師と利用者に関する情報を共有し、医療面はもちろん介護面に関する相談をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のケースワーカーと連絡を取り合い、状況を聞いたり面会に行ったりして、帰居の時期を相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は当社の見取りの指針に基づき、医師・家族・本人と話し合い、職員と会議の場で話し合い、方針を決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	会議の場で職員と話し合い、出来ること・出来ないことを医療機関とも相談して支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーにて特記事項やホームでのケアを伝え、利用者の生活が変わらないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケースファイルは鍵のかかる戸棚にしまっている。また、居室のドアの小窓に中が見えないような配慮をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の言葉がけの中から、好きなこと・嫌いなことを聞きだすようにしている。また、コミュニケーションのとりにくい利用者さんとは、本人とよく話し合い本当の希望は何かを聞き、それをもとに自己決定につなげている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調や状況に合わせて生活のリズムを変えている。また、利用者の希望には出来る限り迅速に対応するように心がけている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容に来てもらっており、希望時は髭剃り・パーマ等できるようにしている。また、希望によっては毛染めを行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>外食や季節の行事で好みのメニューの提供に努めている。食事の準備・片付けは利用者と職員で行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者・家族・医師と相談しながらタバコやお酒を楽しめる環境作りをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して、個々の排泄時間を把握している。また、常時おむつ交換であっても排便時はトイレへ誘導するなどの工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルサイン・健康状態を確認した上で、可能な限り希望を取り入れて支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	21時に消灯をするが、状況によってはお茶を飲んだりテレビを見たりしている。眠れないとの訴えがあるときは、会話や空調の調整・環境整備などを行い、眠れる環境を作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴の中から出来ることを探し、役割をもって頂くよう、支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	場合によっては家族と相談し、本人がお金を管理していることもある。また、移動パン屋で買い物をするときは、利用者に財布を渡し、支払いをお願いしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の時間をつくったり、ベランダで日光浴をしたりと外気に触れる環境を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションで遠足や外食を取り入れたりと、家族の支援によって希望の場所に出かけられるように配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がいる。また、希望時には電話が出来る環境を作っている。手紙もご本人にお渡しをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で対応する・お茶を出すなど、個々に気をつけて心地よく過ごせるような環境づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動の抑制だけでなく、言葉での抑制がないように職員が気を配っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関以外は自由に外へ出られるような環境づくりをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時にノックをしたり、常時利用者の所在場所や様子を把握するように努め、生活記録に記載している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類などは鍵のかかる戸棚にしまっているが、リビングには手洗い用の石鹸を置き、入居者が使えるようにしている。また、かみそりなどは、利用者の管理能力を検討し、利用者・家族と話し合い、個々に対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送りや会議で個々の状況を話し合い、家具の配置換えなどで事故防止に取り組んでいる。また、リスクマネジメントの研修に参加をして、会議で報告をして、ケアに活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は周知されているが、訓練は出来ていない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・職員間での火災訓練はおこなっているが、入居者の避難訓練を実施していない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の観察の中から、事故のリスクが高い利用者に関しては本人の意向を踏まえた上で家族と話し合いの機会をもち、対応策を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定と排泄状況・本人の訴えなどを申し送りにて情報を共有している。また、異変時には医師の指示のもとに対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録で用法・容量が確認できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方には、水分補給や体操をするなど、個々にあった方法で対応をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に応じて声かけや見守り・介助を行い支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を記載し、摂取量が少ない方は、食事時間をずらしたり、水分摂取の機会を増やしたりして対応をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗いの励行、マニュアルの回覧や書面によるケアの統一を図っている。感染症に関しては、入社時に研修を行っている。		感染症に関する委員会を作り、感染予防に対し更なる努力をしてゆきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水周りの掃除や布巾・まな板の消毒を行い、冷蔵庫の中も賞味期限切れのものがいないか整理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には物を置かず、すっきりと見えるようにしている。また、入居者・家族と共に庭に花や作物を植え、収穫し、季節感を感じるように配慮している。		玄関に飾り物をおくなどして、家庭的な雰囲気を出してゆきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の写真等を飾り、季節感を出している。また、畳やコタツを活用して、居心地欲過ごせる空間を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで仕切りを作り、共用スペースの中にくつろげる空間を作っている。また、縁側に椅子を置いて息抜きが出来る環境を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具・寝具など、本人の使い慣れたものを持ってきていただいたり、畳を敷いたりして、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に窓を開け、換気をしている。また、換気扇にて常時換気している。温度調整は、居室ごとや入居者の好みに応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて家具の配置を考慮したり、ポットや電気がまを共有スペースに置いて、お茶を入れてもらっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて、声かけや介助を行っている。また、利用者を受容するようにつとめ、混乱や失敗がないように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	イベントで庭を利用したり、畑に花や野菜を植えて利用者が収穫する楽しみを感じられるようにしている。また、縁側で日光浴等の活動をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者ひとりひとりのニーズ合わせたケアに力をいれ、柔軟な視点でケアに取り組むようにしている。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームみんなの家横浜宮沢
(ユニット名)	2ユニット
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市瀬谷区宮沢
記入者名 (管理者)	山村 生恵子
記入日	平成 18 年 12 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	[地域にホームを知ってもらう]という理念の下、地域の行事へ参加したり、ホームの行事を地域の方にお知らせをしている。	回覧板などを活用し、ホームの行事をもっと多くの方に知っていただき、地域の方がホームへ足を運んでもらうようにしていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	[必要な人に必要なサービスの提供を]の理念のもと、利用者・家族の意向を取り入れ、ケアカンファレンスにて話し合い、介護計画にて周知・実践をしている。また、事業所として、[地域にホームを知ってもらう][笑顔]という理念を会議の中で話し合い、職員と共に定めた。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念をホームに掲示し、家族会で理念について説明をしている。また、地域の行事に参加するときは、家族にも参加を呼びかけ、理念を具体的に理解してもらえようように呼びかけている。	運営推進会議にて、地域に理念の理解を求めてゆきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩で近隣の方々に会った際に挨拶や会話をしている。また地域の行事等、回覧板の中から抜粋したものをまわして頂いている。	お茶を飲めるような場所を地域へ提供してゆきたい。また、ホームの行事への参加を呼びかけてゆきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の催し物や、神社の行事などに参加できる機会を大切にしている。また、ホームのイベントへの参加についても連絡し、地域の方に来ていただけるように努めている。	地元の方々との交流が少ないので、自治会の会合や行事へ参加をしてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々との良い関係を築いてゆくにはどうしたらよいか、ボランティア等地域資源の活用について職員会議で話し合っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に関して研修を開き、理解に努めた。また、自己評価は職員全員で行うことで、新たな気づきや改善点があった。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区役所主体の運営推進会議を開催。現在は事業所の運営推進会議にむけて、内容の検討をしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターで開催するイベントに参加したり、要介護申請や生活保護関連でケースワーカーと連携をとり、相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護事業や青年後見人制度についての資料はあるも、現在必要としている方はいないので、活用をしていない。		権利擁護制度についての理解がなされていないので、今後会議などで学ぶ機会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修等で虐待防止やリスクマネジメントについて話し合う機会を設け、利用者一人ひとりに合わせた対応をし、暴力はもちろん言葉での虐待がないように努力をしている。		虐待防止関連法について学ぶ機会をもち、虐待防止についての理解を一層深めてゆきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や解約時は管理者または担当者が説明し、理解をして頂いている。また、不安につながると予想された場合は入居後も再度説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は話掛けやすい雰囲気作りに努め、利用者の意見を傾聴し、その都度話し合いの場をもち、改善に努めている。また、面会者には、本人が不安や不満を言っていないかを時々確認している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の状況や金銭管理・健康状態等は、毎月お手紙を郵送している。また、状況に応じては電話連絡を行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設置したり、ホーム内に意見箱を設置している。また、家族会や面会時などの機会に話を伺い、ホームで出来ることに関しては会議で話し合い対応している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や全体会議を月1回開催している。また、問題発生時は随時意見を聞き、反映に努めている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に合わせ、その都度話し合いの機会を設け、早番や遅番を検討・導入している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各階の職員を固定し、利用者となじみの関係が出来るように配慮している。また、職員との話し合いの機会を持ち、利用者へのダメージについて周知に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・社外ともに研修のお知らせをファイリングし、希望時はシフトの調整をしている。また、職員会議を研修の場として活用している。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のホームの運営者同士が連携を密に取り、疑問点等を話しあっている。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフトに関してできる限り職員の希望を取り入れている。また、会議の場などで意見を聞き、改善に努めている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	居室担当制を導入し、職員が責任を持つようにしている。また、職員と共に働き、個々の努力や能力を把握するように努めている。		介護計画への関わりを深めたり、個々にあわせた研修を行い、さらなる意欲の向上に努めたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ホームで安心した生活が送れるように話を傾聴し、受け止め、場合によっては家族とも連携をとりながら不安やストレスの軽減を図っている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会の際や電話にて話し合いの機会を持ち、家族からの要望を聞くように努力している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族から相談を受けた際は職員間・場合によっては医療機関と話し合いの機会を持ち、迅速に対応できるよう心がけている。また、場合によっては提携外の医療機関や福祉サービスを利用できるように調整をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に不安な気持ちを持っている利用者に関しては、なじみの家具や寝具を居室においたり、他の入居者とのコミュニケーションを図ったり、家族との連絡を頻繁にするなど、不安を取り除き早くホームになじめるような支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護する側・される側という立場ではなく、共に生活する家族という関係を大切にしている。介護が必要な部分は職員がフォローし、利用者からは人生の先輩として生活に関しての様々な助言を受け、お互いに支えあう関係を作っている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族とは連絡を密に取り情報を共有するように心がけており、本人のケアを共に考えるようにしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者の生活歴等、本人・家族から情報を集め、支援に生かしている。また、ホームでのイベントに家族が参加できるようにして、利用者との良い関係を保つようにしている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力の下、友人・知人が気軽に会いに来られる雰囲気をつつしている。また、なじみの場所に出かける利用者もいる。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を理解し、難聴などでコミュニケーションが取りづらい利用者については職員がフォローをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的に関わりを必要としている方が現在はいない。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や動作の中から意向の把握に努め、希望に関しては迅速に対応するように心がけている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の実態調査表や、家族・本人からの話から、生活歴を把握するようにしている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の申し送りや生活記録・食事摂取量や血圧測定などで本人の行動や言動で職員が把握するようにつとめている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族との話し合いの場を設け、本人に合わせて計画を立てている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	半年に1度、新しい介護計画を作成している。必要であれば医療機関・家族からの情報も準備し、今後も対応を協議している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や申し送りノートの活用、ケアカンファレンスの記録などで、本人の状態を考え介護計画に組み込んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、家族との連絡を取ったり、散歩にでたり、外出に行ったりと、訴えがあった際には出来る限り迅速に対応するように心がけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の協力を得て消火訓練を行ったり、地区センターを利用し、カラオケや図書の貸し出しを行っていた。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて事業所又は外部のケアマネジャーと外部のケアマネジャーと連絡をとっている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議にて協力を図る。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望時はご家族付き添いにてかかりつけ医の外来受診を行っている。また、24時間体制でサポートを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	訪問医の判断や、職員の要望で専門医の治療が受けられるようになっている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護師や訪問医療機関の看護師と利用者に関する情報を共有し、医療面はもちろん介護面に関する相談をしている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院のケースワーカーと連絡を取り合い、状況を聞いたり面会に行ったりして、帰居の時期を相談している。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は当社の見取りの指針に基づき、医師・家族・本人と話し合い、職員と会議の場で話し合い、方針を決めている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	会議の場で職員と話し合い、出来ること・出来ないことを医療機関とも相談して支援に取り組んでいる。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	介護サマリーにて特記事項やホームでのケアを伝え、利用者の生活が変わらないように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>ケースファイルは鍵のかかる戸棚にしまっている。また、居室のドアの小窓に中が見えないような配慮をしている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日々の言葉かけの中から、好きなこと・嫌いなことを聞きだすようにしている。また、コミュニケーションのとりにくい利用者さんとは、本人とよく話し合い本当の希望は何かを聞き、それをもとに自己決定につなげている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の体調や状況に合わせて生活のリズムを変えている。また、利用者の希望には出来る限り迅速に対応するように心がけている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>訪問理美容に来てもらっており、希望時は髭剃り・パーマ等できるようにしている。また、希望によっては毛染めを行っている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>外食や季節の行事で好みのメニューの提供に努めている。食事の準備・片付けは利用者と職員で行っている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>利用者・家族・医師と相談しながらタバコやお酒を楽しめる環境作りをしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を利用して、個々の排泄時間を把握している。また、常時おむつ交換であっても排便時はトイレへ誘導するなどの工夫をしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	バイタルサイン・健康状態を確認した上で、可能な限り希望を取り入れて支援をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	21時に消灯をするが、状況によってはお茶を飲んだりテレビを見たりしている。眠れないとの訴えがあるときは、会話や空調の調整・環境整備などを行い、眠れる環境を作っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴の中から出来ることを探し、役割をもって頂くよう、支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	場合によっては家族と相談し、本人がお金を管理していることもある。また、移動パン屋で買い物をするときは、利用者に財布を渡し、支払いをお願いしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の時間をつくったり、ベランダで日光浴をしたりと外気に触れる環境を作っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	レクリエーションで遠足や外食を取り入れたりと、家族の支援によって希望の場所に出かけられるように配慮をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がいる。また、希望時には電話が出来る環境を作っている。手紙もご本人にお渡しをしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	笑顔で対応する・お茶を出すなど、個々に気をつけて心地よく過ごせるような環境づくりをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動の抑制だけでなく、言葉での抑制がないように職員が気を配っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関以外は自由に外へ出られるような環境づくりをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入室時にノックをしたり、常時利用者の所在場所や様子を把握するように努め、生活記録に記載している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品類などは鍵のかかる戸棚にしまっているが、リビングには手洗い用の石鹸を置き、入居者が使えるようにしている。また、かみそりなどは、利用者の管理能力を検討し、利用者・家族と話し合い、個々に対応している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	申し送りや会議で個々の状況を話し合い、家具の配置換えなどで事故防止に取り組んでいる。また、リスクマネジメントの研修に参加をして、会議で報告をして、ケアに活用している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時の対応は周知されているが、訓練は出来ていない。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署・職員間での火災訓練はおこなっているが、入居者の避難訓練を実施していない。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	日々の観察の中から、事故のリスクが高い利用者に関しては本人の意向を踏まえた上で家族と話し合いの機会をもち、対応策を決めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日2回のバイタル測定と排泄状況・本人の訴えなどを申し送りにて情報を共有している。また、異変時には医師の指示のもとに対応をしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録で用法・容量が確認できるようにしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が続く方には、水分補給や体操をするなど、個々にあった方法で対応をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の能力に応じて声かけや見守り・介助を行い支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事・水分摂取量を記載し、摂取量が少ない方は、食事時間をずらしたり、水分摂取の機会を増やしたりして対応をしている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出後の手洗いの励行、マニュアルの回覧や書面によるケアの統一を図っている。感染症に関しては、入社時に研修を行っている。		感染症に関する委員会を作り、感染予防に対し更なる努力をしてゆきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	水周りの掃除や布巾・まな板の消毒を行い、冷蔵庫の中も賞味期限切れのものがいないか整理をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には物を置かず、すっきりと見えるようにしている。また、入居者・家族と共に庭に花や作物を植え、収穫し、季節感を感じるように配慮している。		玄関に飾り物をおくなどして、家庭的な雰囲気を出してゆきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事の写真等を飾り、季節感を出している。また、じゅうたんやコタツを活用して、居心地欲過ごせる空間を作っている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで仕切りを作り、共用スペースの中にくつろげる空間を作っている。また、ベランダを開放し、椅子を置いて息抜きが出来る環境を作っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や家具・寝具など、本人の使い慣れたものを持ってきていただいたりして、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の際に窓を開け、換気をしている。また、換気扇にて常時換気している。温度調整は、居室ごとや入居者の好みに応じてこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に向けて家具の配置を考慮したり、ポットや電気がまを共有スペースに置いて、お茶を入れてもらったりご飯をよそってもらっている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の能力に応じて、声かけや介助を行っている。また、利用者を受容するようにつとめ、混乱や失敗がないように配慮している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	イベントで庭を利用したり、畑に花や野菜を植えて利用者が収穫する楽しみを感じられるようにしている。また、ベランダで日光浴や月見等の活動をしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者ひとりひとりのニーズ合わせたケアに力をいれ、柔軟な視点でケアに取り組むようにしている。